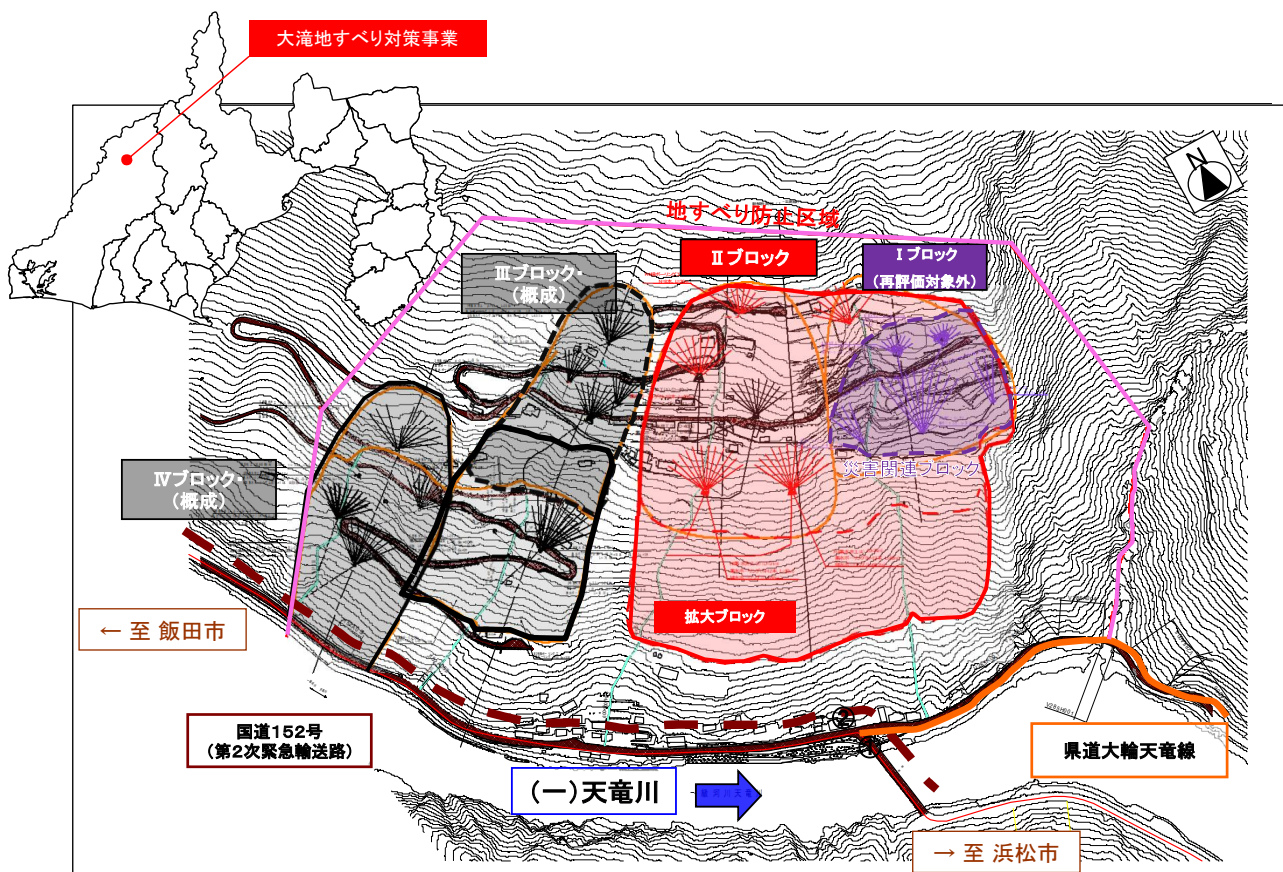


番号	17	令和 8 年度公共事業再評価調査				担当課名	砂防課																																		
事業名	地すべり対策事業				事業主体	静岡県																																			
ふりがな	おおたき				関係市町	浜松市																																			
箇所名	大滝																																								
事業採択年度	令和 4 年度		計画期間	令和4年度 ～ 令和13年度																																					
用地着手年度	令和 5 年度		工事着手年度	令和 5 年度																																					
再評価理由※	事業採択後5年経過																																								
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R6年度	R7年度	R8年度見込	計																																			
	760		293	111	41	445																																			
事業概要	(1) 事業目的 大滝地すべりは浜松市天竜区佐久間町大井に位置し、保全対象として人家16戸、一級河川天竜川、国道152号（第2次緊急輸送路）を含む地すべり防止区域である。 令和2年に地すべり活動が活発化したため、災害関連緊急地すべり対策事業で対策工事を実施していたが、令和4年の豪雨により地すべりブロックが拡大したことから、地すべり発生原因となる地下水を低下させるため、集水井工などの地すべり防止施設を整備するものである。 (2) 事業内容 計器観測 1 式 集水井工 4 基 横ボーリング工 2 群																																								
【視点1】	(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・ 近年、激甚災害が頻発化し、県内でも甚大な土砂災害が発生しており、浜松市においても、令和4年度以降に56件の土砂災害が発生するなど、事業に対する地元の期待も大きい。 ・ 保全対象人家の住民にアンケートを実施したところ、大半が「事業を継続する必要がある」と回答しており、事業に対する地元住民からの要望も強い。 (2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点)<table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>11.8</td><td>18.3</td><td>23.7</td><td>48.8%</td></tr></table> ・ 総便益 (B) 247.6 億円 (年平均便益：11.7億円) ・ 総費用 (C) 21.0 億円 (建設費：20.1億円、維持管理費：0.9億円) ○見込まれる効果（定性的な効果） ・ 地すべりによる甚大な被害防止 (3) 事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み)<table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>58.6%</td><td colspan="2">(445 百万円 / 760 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>集水井工</td><td>50.0%</td><td colspan="2">(2 基 / 4 基)</td></tr><tr><td>横ボーリング工</td><td>0.0%</td><td colspan="2">(0 群 / 2 群)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(128 m² / 128 m²)</td></tr></table><table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	11.8	18.3	23.7	48.8%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		58.6%	(445 百万円 / 760 百万円)		事業量	集水井工	50.0%	(2 基 / 4 基)		横ボーリング工	0.0%	(0 群 / 2 群)		用地取得		100.0%	(128 m ² / 128 m ²)		評価	継続が妥当
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																						
11.8	18.3	23.7	48.8%																																						
区 分		進捗率	内 訳																																						
事業費		58.6%	(445 百万円 / 760 百万円)																																						
事業量	集水井工	50.0%	(2 基 / 4 基)																																						
	横ボーリング工	0.0%	(0 群 / 2 群)																																						
用地取得		100.0%	(128 m ² / 128 m ²)																																						
評価	継続が妥当																																								
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 事業に必要な用地の取得が完了したことから、今後、計画している集水井工や横ボーリング工の整備を進める。 地元住民からの期待も大きいことから、事業を計画的に推進し、令和13年度完了を目指す。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																																
評価	継続が妥当																																								
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 コスト削減対策としては、詳細設計時において横ボーリング工を効果的に配置することにより、工事費を最小限に抑える工夫を実施している。また、可能な範囲で新技術・新工法の採用を検討し、さらなるコスト削減を図っていく。																																								
対応方針(案)	(1) 対応方針（案） 本事業を 【 継続 】 する。 (2) 理由 事業は順調に推移しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の推進を図る。																																								

1. 事業箇所位置図



1. 事業箇所位置図

地すべり被害保全対象

【人家・公共施設】

人家 16戸

【道路】

(国)152号ほか

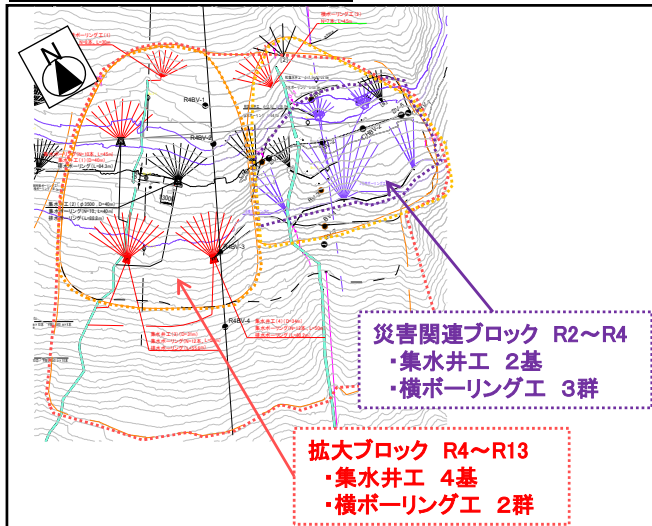
【河川】

一級河川天竜川



2. 事業概要

詳細位置図



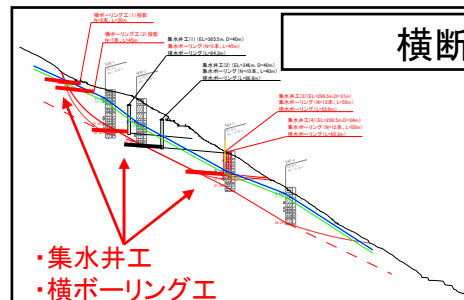
事業目的

大滝地区には(国)152号及び一級河川天竜川、人家16戸の保全対象を有する。
明瞭な地すべり地形や構造物のずれ・沈下も認められ、集中豪雨等にて地すべり活動が危惧されるため、事業推進により被害軽減を図る。

事業内容

- ・計画期間：令和4年度～令和13年度
- ・事業内容：集水井工、横ボーリング工
- ・全体事業費：760百万円

横断図



ブロック積の亀裂



道路の亀裂

3. 大滝の事業概要

前回からの変更点・理由

区 分	前回(R3)	今回(R8)	主な変更理由
①計画期間	R4～R8	R4～R13 (+5年)	・事業用地に休眠抵当権が付いており、用地取得に時間を要した。
②全体事業費	580百万円	760百万円 (+180)	・労務費及び物価の上昇 ・集水井工の施工箇所で硬岩層が確認されたことに伴う発破作業の追加

施設整備状況

	計画	整備済み	残事業
集水井工	4基	2基	2基
横ボーリング工	2群	0群	2群
用地取得	128m2	128m2	0m2



集水井工の効果(地下水排除の状況)

4. 事業の投資効果

事業の投資効果（費用対効果の検証）

総便益（B）

総便益 247.6億円

- ☐ 直接被害
 - ・家屋被害、道路被害、人的被害（逸失利益）
- ☐ 間接被害
 - ・営業停止、交通途絶、人的被害（精神障害）

総費用（C）

総費用 21.0億円

- ・建設費
- ・維持管理費



費用対効果(B/C):11.8 経済的内部収益率(EIRR):48.8%

前回の費用対効果(B/C):9.6

-----理由記載（前回との比較）-----

「費用便益分析マニュアル」の改定に伴い、人的被害額の精神的損害額が
2.26億円/人⇒6.01億円/人に上げられたため

5. 今後の事業の進捗の見込み

●事業推進のための取組

- ・事業に必要となる用地の取得が完了したことから、計画している集水井工や横ボーリング工の整備を進める。
- ・新技術・新工法の活用を検討するなどコスト縮減と工期短縮を図っていく。